

医療機関との連携強化にむけたトレーシングレポートの活用と課題

長谷川 真希¹⁾、沢田 真史²⁾、片山 珠季³⁾、前田 守⁴⁾、長谷川 佳孝⁴⁾、
月岡 良太⁴⁾、森澤 あずさ⁴⁾、大石 美也⁴⁾

- 1) 株式会社インファーマシーズ アイン薬局 淀店
- 2) 株式会社インファーマシーズ アイン薬局 四条烏丸店
- 3) 株式会社インファーマシーズ
- 4) 株式会社インホールディングス

【目的】超高齢社会の医療を支える地域包括ケアシステムでは、今まで以上に医療機関同士の連携が重要となる。保険薬局についても「患者のための薬局ビジョン」実現のための評価指標(KPI)において「医療機関等との連携強化」の重要性が示されており、文書による医師への情報伝達であるトレーシングレポート(TR)の重要性が増している。そこで本研究では更なるTR運用に向けて薬局薬剤師のTRに対する意識に着目した現状の課題抽出を行った。

【方法】2019年1月15日～2月20日に、当社が近畿地方2府7県にて運営する保険薬局の薬剤師133名を対象としたTRに対する意識調査を実施した。主な項目は「TRの提出経験」「日常業務でTRについて意識していること」等とした。「TRの提出経験」の回答から経験あり群と経験なし群に群分けし、経験あり群には「TRの内容」や「提出のきっかけ」、経験なし群には「提出に至らない理由」も調査した。結果は、有意水準0.05としたカイ二乗検定またはFisher正確確率検定で統計解析した。なお、本研究はアイングループ医療研究倫理審査委員会の承認を得て実施した(承認番号:AHD-0022)。

【結果】有効回答数は126名であり、経験あり群(103名、81.7%)の方が経験なし群(23名、18.3%)より多かった。経験あり群が回答した「最も多いTRの内容」は「残薬調整(31.1%)」「アドヒアランス(24.3%)」の順に多く、「提出のきっかけ」は「薬剤師からの声かけ(70.9%)」が最も多かった。経験なし群が回答した「最も多い提出に至らない理由」は「時間がない」「判断に自信がない」「医療機関の受け入れ体制がない」が21.7%であった。また「日常業務でTRについて意識していること」は「聞き取り」が経験あり群(42.7%)の方が経験なし群(13.0%)よりも有意に高く、「特になし」が経験あり群(29.1%)の方が経験なし群(56.5%)よりも有意に低かった。

【考察】調査対象の当社薬剤師の約8割にTR提出経験があり、提出のきっかけの約7割が「薬剤師の声かけ」であったことから、薬局薬剤師がTRによる医療機関との連

携を積極的に活用している状況が確認できた。しかし TR の提出経験がない当社薬剤師は「提出に至らない理由」に「時間がない」「判断に自信がない」等を挙げ、「日常業務で TR を意識しない」等の消極的な姿勢も見られた。今後さらなる TR 運用の推進に向けて、薬局薬剤師の TR に対する重要性の認識を再啓発する必要性も考えられた。

(第 52 回日本薬剤師会(2019 年 10 月, 下関)にて発表)